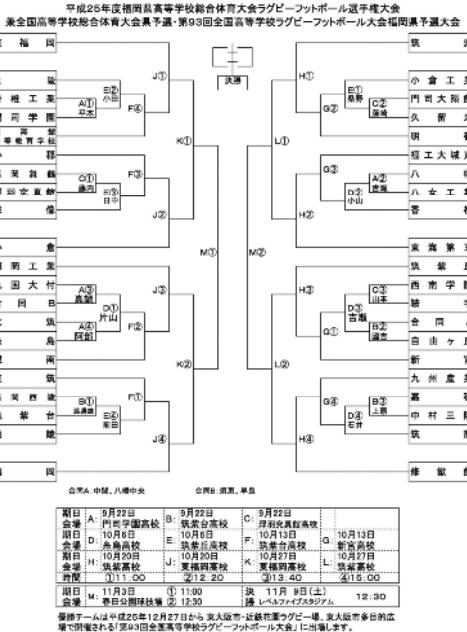


いざ、決戦

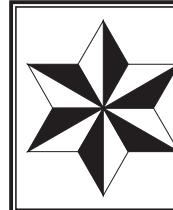


長崎遠征では随所に力強いプレーもみられた

第93回全国高校ラグビー福岡県予選の組み合わせが決まった。毎年のことながら、秋は運動会に試験休みと思うように練習時間が取れない。それでも、10月に入り、長崎遠征で長崎北陽台と引き分け、海星に快勝するなど順調に仕上がってきました。



高橋主将は「敵陣に深く入れるけど、トライを取り切れない。まだ、そこで、自分を含めてあせって取り急ぐシーンがある。長くフェイズを重ねてしっかり継続し続ける意識をもっと植え付けていかなければ」と課題を上げる。人数は少ないが、最後は3年が引っ張つていかなければいけないと強い思いがある。「11月にベストパフォーマンスが出せるようにあげていきたい」とまっすぐ前を見据えた。順当に勝ち進むと、準決勝では、新人戦で勝って九州大会で敗れた筑紫と決着をつけることになる。



修猷館ラグビーOBクラブ

会報 平成25年10月号

修猷館ラグビー部 公式ホームページ
URL <http://rugby-shuyukan.com/>



五輪旗に活躍を誓う東選手（左）と古城選手

東京五輪がやってくる

2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決まった。ラグビーは7人制が五輪競技となり、3年後の16年リオデジャネイロ大会から採用されて、東京でも実施される。今春、88年のラグビー部史上初の女性部員となった東茉那（ひがし・まな）選手は五輪出場を夢見る一人。7年後へ向け、紅一点、西新のグラウンドを黙々と駆け回っている。



東京五輪の聖火リレーで使われたトーチ

修猷館と五輪のかかわりは「五輪旗」が知られる。1964年東京五輪組織委員会の会長に就任したのは、柔道部OBで九州電力の会長などを歴任された安川第五郎先輩だった。国際オリンピック委員会のブランデージ会長は大会を成功させた功績をたたえ、期間中、メインスタジアムの国立競技場に掲げられていた五輪旗を安川先輩に贈った、という。翌年、安川先輩が講演会と祝賀会に訪れた際、この旗を「母校のために」と寄贈した。旗は運動会の入場行進で披露されたり、新しくなった体育館に掲げられたりしてきた。

56年ぶりに再び東京に聖火がともることになって注目を浴び、福岡での聖火リレーで陸上部員が掲げたトーチとともに修猷資料館に保管されている。

● 発行 / 修猷館ラグビー部OBクラブ

事務局 / 松尾 邦雄 (S46卒)

〒818-0105 太宰府市都府楼南2-16-45-707

携 帯 090-3012-0903

E-mail mactaiho@san.bbiq.jp

夢は大きく



安定したパスさばきをみせる東選手

タックルって怖かったでしょう?「大丈夫。相手によりますけど・・・」。こんな負けん気の強さもあって、次第にこの競技にのめり込んでいった。2年になると7人制の全国大会が始まり、U15九州選抜として遠征に参加した。親族をはじめ周りにラグビー経験者はいなかった。「最初は、えっ、なんでラグビー、みたいな感じで言われていたけど、楽しそうにしているから、まあ、いいか、みたいな感じになりました」。

高校を選ぶとき、修猷館に女子選手がいないことは知っていた。「ほかの高校でも女子1人で頑張っている先輩はいるので。ラグビーをしたいのと、女子ってラグビーでは食べていけない。勉強もちゃんとできるということで、修猷を目指しました」。こうして、1925年に産声を上げた部に、記念すべき第1号は生まれた。

修猷の練習では、コンタクトプレー以外は男子と同じメニューをこなしていく。「男子には体格、体力で負ける。でも、その環境でできるのはうれしい。慣れました。全てが女子と全然違う、尊敬している先輩もいっぱいいるし、すごく刺激になる」。ハーフに入ってパスをする姿などはほかの部員と遜色ない。運動会のリレーでは、得意の爆走をみせたらしく。悩みは部員一人で激しい練習ができないことだ。「同級生をめちゃくちゃ誘ったんですよ。一人、小学校の時、草ヶ江ヤングラガーズでやっていた子がいたんですが、陸上部に入ってしまって。もう一人いれば、タックルの練習もできるのですが。頑張ったけど、ダメでした」

この春、日本ラグビー協会のセブンズアカデミー合宿に参加したが、受験で準備ができなかつることもあり納得のいくパフォーマンスを発揮できなかった。その後の合宿には呼ばれておらず、悔しさもある。

「五輪の正式競技になったので、日本代表で出られるように」。

簡単ではないが、きっと、手が届かないものでもない。

12月は10校ラグビーへ

10校ラグビーフェスティバルの開催が12月7日(土)に決まりました。場所は東京都調布市の日本郵船飛田給体育場。京王線飛田給駅、味の素スタジアム近く。天然芝で外国のグラウンドと見間違えるような素晴らしい施設です。詳細はまだ、未定ですが、参加希望の方は原大基さん(daikihara1874@gmail.com)までご連絡ください。特に若手の皆さん、単独チームで参加できるように大集合して、同世代の他校を蹴散らしてください。さらに、懇親会にも参加して交流を深めてください。

2年ぶりにU17代表

2年生の古城隼人選手が、昨季の永富主将以来、2年ぶりにU17日本代表に選ばれた。夏の長野・菅平であった9地区の選抜チームによる第9回全国高校合同チーム大会で主将として九州代表を優勝に導いた。その活躍が認められ8月下旬に中国で開かれた第21回日本・韓国・中国ジュニア交流競技会に日本代表のメンバーとして参加。S0として2試合に先発、1試合に途中出場し、3試合すべて快勝して遠征を終えた。

今回の遠征に参加して、古城選手は「代表を意識すること。プレーをはじめ、日頃の行動でもそういう意識を持つことが大切」ということを学んだという。貴重な経験をどうやってチームに還元していくのか。「例えば、防御のカバーなどの決まり事をチームでしっかりと共有できれば、間一髪でトライを防げるような戻りができることがある。小さなプレーも意図してやることを伝えられれば、チーム力はもっと上がると思っています」



ジャパンのジャージーに袖を通した古城選手

夏を乗り越えて

今年も恒例の夏合宿を鹿児島・さつま町で張りました。日射しが照りつける暑いですが、朝、夕は過ごしやすい天候の中、じっくり鍛えることができたようです。ご父兄の応援は多いですが、OBの参加はちらほら。学生が泊まっている汗臭い宿などを実際にのぞいてみて、たまには昔を思い出すのもいいかもしれません。来年は差し入れをもって一人でも多くのOBの参加をお願いします。



かぐや姫グラウンドの朝もやの中、鍛える

いろいろと支えてくれる女子マネジャーの今年の3年生は2人。熊谷優さんは「特に最終日はきつそうな練習に見えるけど、福岡に帰ってくると皆、動きが違って見える。3年間、練習以外にも忙しく合宿を過ごしたら、さらに仲良くなれた気がします」と振り返ってくれました。氷の手配が難しく、飲み物を冷やすことなどで苦労の連続だそうです。

國武八衣子さんは「1年生の頃は先輩マネジャーから怒られて動けなかった。先輩がやっていることを、見ているような感じだった。2年でやっと5日間の流れに慣れたかな。3年になって、周りが見えて部員を動かすことができた。マネジャーとしても成長したと思う」と感じたようです。選手が苦しそうに、どんどんご飯を食べるところを見るのも合宿の楽しみだったとか。ご苦労さまでした

■平成25年度会費の納入にご協力お願いします。■

今からでも遅くありません。まだの方は、ぜひ、お振り込みください。

★年会費 7,000円 (学生 3,000円、70歳以上 5,000円)
★振込先 西日本シティ銀行 西新町支店
普通 1336258 修猷館ラグビーOBクラブ